

# 日本企業への就職を目指す留学生の直面する問題について：模擬試験問題から推測する筆記試験SPIの難しさ

著者	古本 裕子
雑誌名	名古屋学院大学論集 言語・文化篇
巻	22
号	1
ページ	83-96
発行年	2010-10-31
URL	<a href="http://doi.org/10.15012/00000522">http://doi.org/10.15012/00000522</a>

# 日本企業への就職を目指す留学生の直面する問題について

——模擬試験問題から推測する筆記試験SPIの難しさ——

古 本 裕 子

## 1 はじめに

本研究の目的は、日本の企業への就職を目指す留学生の直面する問題点を明らかにすることである。

少子化と国際化という文脈の中で、留学生を増加させ、就職という形で定着させる流れが強まっている(法務省入国管理局2009)。

本稿では最初に、この問題の背景として現在の留学生の就職状況、日本企業が留学生に求めるもの等について、既存の資料調査をする。そこで、留学生の就職活動において困難な問題の1つとして「企業が求める高い日本語力」があることを明らかにする。

企業が留学生の日本語力を測る方法の1つは、面接での受け答えである。入社してからのOJT(On the Job Training)をスムーズに進める目的で、「日本人と同等」の基準で合否が判断されると言う(古本・川口2009)。

一方、既に就職している元留学生の多くから就職する上で障害であったとされているものに、SPIがある。これは、企業が留学生に対しても日本人と同じように日本語で課している筆記試験である。多くの受験参考書はあるものの、留学生のためにその日本語を分析した研究は見当たらない。SPIは公開されていないため、模擬試験問題を使って、その日本語の語彙について分析をする。そして、それが留学生にとっていかに困難な課題かを明らかにし、その対策の

方法について1つの提案をする。

留学生の場合、これまでは、一部の就職できる人が個人の力で就職するという状況で、就職支援は一般的ではなかった。しかし、最近では大学でも留学生に対し、意識的な就職支援を行って行くようになってきた(専門日本語教育学会2010)。今後、就職支援をどのように行っていくかは、研究が始まったばかりで、議論はこれからである。

ここでは、就職を目指す留学生が直面する問題を明らかにすることにより、留学生が日本での就職という夢をかなえる助けとすることを目指す。

## 2 研究の背景と目的

### 2.1 企業が求めるもの

留学生が日本企業に就職する際、どのような点が障害になっているかについて留学生に対する既存の調査結果から知る。

法務省入国管理局(2009)によると、平成20年度(2008年)「留学」及び「就学」の在留資格を有する外国人(「留学生等」)が日本の企業等への就職を目的として在留資格変更許可申請を行った件数は11789人であった。留学生は平成10年度(1998年)には、2000人を超す程度であったので、10年間で5倍の増加をしている。そして、この数字はさらに増加する見込みである。

また、日本学生支援機構(2010)の行った『平成20年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果』(表1)によると、学位を取った修士課程・学部留学生のおよそ3分の1が就職していることが分かる。この数字は就職の形態が明らかではないため、早計に結論を出すことはできないが、留学生にとって日本での就職は身近なものとなっていることが分かる。

表1 平成20年度外国人留学生進路状況調査結果

		博士課程	修士課程	学部
	卒業生数	2582	6605	11793
日本	就職	672 (26.0%)	2063 (31.2%)	3873 (32.8%)
	進学	116	1669	2976
	他	367	797	1597
日本以外	帰国	1089	1936	2485
	他	85	111	155
計		2329	6576	11086
不明		253	29	707

日本学生支援機構(2008)『平成20年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果』より作成

企業が、留学生に何を求めているかについて、海外技術者研修協会(2007)が行った調査の中から、企業が留学生を採用した理由の部分を表2に示す。次に、厚生労働省(2008)が全国の従業員数300人以上の企業703社<sup>1)</sup>(複数回答)から得たアンケート調査結果を表3に示す。表2・表3の結果に共通するのは、留学生が採用される場合、「国籍に関係なく優秀な人材を確保する」という目的が一番多いということである。単に外国語ができればいいというのではなく、優秀な人材が必要とされているのである。

表2 企業に聞いた留学生の採用理由

(n = 287, 単数回答, 単位 = %)

1	国籍に関係なく優秀な人材を確保するため	112	39.0%
2	海外の取引先に関する業務を行うため	41	14.3%
3	自社(又はグループ)の海外法人における将来の幹部候補として	36	12.5%
4	新規に海外進出(工場, 現地法人立ち上げ等)する際に発生する業務を行うため	36	12.5%
5	自社(又はグループ)の海外法人との調整業務を行うため	32	11.1%
6	日本人への影響も含めた社内活性化のため	23	8.0%
7	日本人では確保しにくくなった専門分野を補うため	4	1.4%
8	その他	3	1.0%

海外技術者研修協会(2007)『日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究報告書』より作成

表3 企業が留学生を採用した理由

(n = 703, 複数回答, 単位 = %)

1	国籍に関係なく優秀な人材を確保するため	65.3%
2	事業の国際化に資するため	37.1%
3	職務上, 外国語の使用が必要のため	36.4%
4	外国人ならではの技能・発想を採り入れるため	9.4%
5	日本人では高度な人材が集まらないため	3.8%
6	外国人の方が人件費コストを低く抑えられるため	0.7%
7	その他	5.7%
8	特に理由はない	5.5%

厚生労働省(2008)『一部上場企業本社における外国人社員の活用実態に関する調査』より作成

しかし、「国籍に関係なく優秀な人材を確保する」という場合、ただ単に優秀であるだけでは採用されないということが次の2つの調査から分かる。まず企業が留学生を採用したポイントについて、海外技術者研修所（2007）の調査から分かることは、多くの企業が日本語力や専門知識を強く求めていることである（表4）。

表4 企業が留学生を採用したポイント  
(n = 415, 複数回答, 単位 = %, 145社)

1	日本語能力	96	66.2%
2	専門知識・能力	74	51.0%
3	日本語以外の語学力	54	37.2%
4	向上心	48	33.1%
5	異文化への適応	42	29.0%
6	性格	40	27.6%
7	日本の文化・社会に関する一般教養的知識	19	13.1%
8	人脈・紹介	12	8.3%
9	学歴・資格	12	8.3%
10	年齢	6	4.1%
11	その他	12	8.3%

海外技術者研修協会（2007）『日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究報告書』より作成

さらに、重要項目の中で、採用時に重視する項目と、入社後育成しようとしている項目とを分けて聞いた結果から、採用時には、専門知識より日本語力が強く求められていることが分かる（表5）。

また、海外技術者研修協会（2007）は、「外国人が就業する際に日本人と比べて不安な点は何か」について調査を行っている。日本語能力が不安だとする企業は、148社で、定着・離職率165件、組織への順応性149件に次いで多い。留学生の日本語力が企業が留学生を活用す

る際の大きな懸念材料になっている。

表5 外国人社員を採用するポイント

		採用時		入社後育成	
1	日本語力	108	74.5%	15	10.3%
2	日本語文化・社会への対応力	66	45.5%	24	16.6%
3	チームワーク力	63	43.4%	75	51.7%
4	母語を含む日本語以外の語学力	58	40.0%	19	13.1%
5	専門知識	54	37.2%	83	57.2%
6	日本企業文化・働き方への対応力	54	37.2%	50	34.5%
7	考え抜く力	51	35.2%	75	51.7%
8	前に出る力	47	32.4%	53	36.6%
9	その他	0	0.0%	2	1.4%
回答企業145		n = 501		n = 396	

海外技術者研修協会（2007）『日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究報告書』より作成

以上の3つの調査結果より、留学生は国籍に関わらず優秀であるだけでなく、就職試験の時点でかなりの日本語力が求められていることが明らかとなった。つまり、日本語力が低い場合には、就職が難しいということである。

## 2.2 合格に必要な力

次に、就職試験のとき、どのような日本語力が必要なのかについて考える。1つには面接での受け答えが的確にできることである。これについて、古本・川口（2009）が調査した結果を見る。古本ら（前掲）は愛知県にある自動車産業の企業10社に、インタビュー調査を行い、日本企業が学生に期待する日本語力を聞いた。

第1にわかったことは、高い日本語力の必要性である。10社のうち8社が、入社試験の基準として、日本人と同等というレベルを挙げている<sup>2)</sup>。

さらに詳しい分析をすると、その日本語力の内容は次のような点である。

(1) 企業は、ビジネスシーンでの会話やビジネス文書を書くことを求めているのではない。一般的な日本語で話したり、書いたりできることが必要である。

(2) 面接での応答の採点ポイントは、質問に合った答え、的確な答えをすること、論理的に理路整然と答えること、とにかく自分の意志を伝えられること、自己PRできることなどである。

(3) 話す内容が重要で、助詞や発音などが多少間違っているてもよい。

入社後、新入社員はOJTによって、その会社にあった日本語を指導されるという。そのため、そのOJTがスムーズに進むような日本語、日本人といっしょにOJTをしても支障がないような学生を求めているのである。しかし、これは留学生にとっては非常に厳しいハードルである。

## 2.3 元留学生が答える日本で就職する上での障害

次に、留学生自身は、就職をする上での障害となっているものをどのように感じているのかを、検討する。

労働政策研究・研修機構(2008)が留学生(現在企業で働いている元留学生)に「あなた自身の経験から見て、留学生が日本で就職する上で障害となっていること」は何かについて質問をしている。結果を表6に挙げた。ここでは、留学生を採用する企業や、求人数が少ないという

回答など、外的な要因が主に挙げられている。日本語力に関係する項目は「企業が留学生に求める日本語能力のレベルが高すぎる」が該当するが、複数回答にもかかわらず、選択されたのは10.4%で9位である。

表6 留学生が日本で就職する上での障害  
(n = 902, 複数回答, 単位 = %)

1	留学生を採用する企業が少ない	50.7
2	留学生に対する求人数が少ない	50.3
3	SPIなど日本独自の筆記試験が外国人には難しい	34.4
4	日本企業への就職に関する情報が少ない	30.2
5	求人募集に年齢制限があることが多い	29.2
6	外国人採用枠がない	26.2
7	就職活動の時期が早く勉強しながらの就職活動が難しい	22.7
8	企業の募集と留学生の希望とが合わない	20.4
9	企業が留学生に求める日本語能力のレベルが高すぎる	10.4
10	その他	7.4

労働政策研究・研修機構(2008)『日本企業における留学生の就労に関する調査』より作成

この学生の意識と、表3～表6までに挙げられた企業の求める日本語力の高さとの食い違いについては、理由が2つ考えられる。1つは既に働いている元留学生の日本語力が高く、企業が求める日本語力が高すぎるとは感じなかったという理由である。もう1つは、元留学生の日本語力の自己評価が高すぎ、企業の評価とは一致していない可能性である。

しかし、ここで注目すべきは、学生にとって「SPIなど日本独自の筆記試験が外国人には難しい」が、3位となっていることである。SPI

は就職のための筆記試験の1つで、留学生に対しても日本語で、日本人と同じように課されるものである。SPIについて検討をする必要があるだろう。

以上、留学生の就職をめぐる背景について述べてきた。日本企業が新入社員に求めるものは、海外技術者研修協会（2007）、古本ら（2009）の調査によると、共通して、高い日本語力を求めていることが分かった。よって、留学生が日本企業に就職するために乗り越えるべきハードルの1つは「企業が求める高い日本語力」を挙げることができるだろう。一方では、SPIなどの筆記試験が難しいという留学生が多い。次章では、このSPIについて、日本語教育の立場から、検討を行っていくことにする。

### 3 SPI 模擬試験問題の分析

学生向けのSPIテスト対策参考書の記述よりSPIの概略を紹介する。「SPIとは、「Synthetic Personality Inventory」の略である。「能力検査と性格検査を合わせ持った、高度な個人の資質を総合的に把握する検査」で、採用・人事の判断材料として幅広く企業が取り入れている」と言う。現在では改訂版のSPI2が使用されているが、一般的にはSPIと言われることが多い（マイナビ編集部2010）。

SPIにはいろいろな種類があるが、多くのものは「能力検査」と「性格適性検査」に分かれている。「能力検査」は国語の問題に類する「言語問題」と、数学の問題に類する「非言語問題」に分かれている。内容は、高校受験レベルまでがほとんどと言われるが、短時間で多くの問題を解くことが要求されている（成美堂2007）。「結果は、偏差値計算で、最も多くの学生が取

る点数を50として、点数化される。人気企業は高い段階で足切りをされる」（マイナビ編集部2010）と言う。

日本人学生も多く時間を割いて準備をしていることから、簡単ではないことが分かる。留学生にとっては問題自体の難しさの前に、日本語そのものが理解できなければ正答は難しい。そこで、ここでは問題の日本語文の難しさ、特に語彙の難しさに焦点をあて検討する。

問題は非公開のため、ここでは、出版されている模擬試験問題を分析する。

#### 3.1 文章の平易度の基準

SPIの文章の平易度を測る基準として、『日本語能力試験出題基準』（旧試験、以後「旧試験」という記述は略す）<sup>3)</sup>の3級、2級、1級の語彙の出題基準を参考にする。

日本語文の平易度を測る方法としては、情報処理学会研究報告の『日本語文の規格化』（2003）がある。この『日本語文の規格化』によると、ほぼ対応する語彙の判定を行う日本語教育学習支援システムに「リーディング・チュウ太」（川村2009）がある。そこで、本研究では、語彙の判定に「リーディング・チュウ太」を使用し<sup>4)</sup>、語彙の抽出とレベル判定を行い、そこで得られた結果を、文章の平易度（難しさ）を判定する基準とする。

#### 3.2 言語問題

分析は、言語問題と非言語問題に分ける。この二種の問題は、問われている内容が全く違うだけでなく、使用されている語彙の難しさが違うと予想されるからである。

まず、模擬試験問題（成美堂2000：以後便宜的に（A）と呼ぶ）の言語問題から見ていく。内容が留学生が回答しやすい問題であるか



について検討しながら、表れた語彙のレベルを見る。

下線の語は日本語能力試験1級の語彙であることを示す。無印は2級以下であることを示す。

下二重線の語は、級外レベルであることを示す。級外レベルとは、一般的には1級以上の難しい語彙であることを意味する。

(1) 語彙問題

SPIの語彙問題でよく出題されるのは、2つの語彙同士の関係を見る問題である。次の例は、最初の2語の関係と同種の関係となる語を選ぶ問題である。

- [2] 病気 — 仮病  
留守 (A居留守 B守衛 C到着  
D留守番 E在宅)
- [4] 大工 — 建築  
教師 (A学生 B学校 C教室  
D教育 E文科省)
- [5] 緊張 — 緩和  
順境 (A平凡 B逆境 C苦勞  
D奴隸 E奇遇)

[2] や [5] は、解答に必要な情報が、級外の難しい語彙である。[4] は語彙的には、1つの級外語彙があるのみである。しかし、大工が建築をする人であること、教師が教育をする人であることを理解していなければ解くことができない。非漢字圏の留学生にとっては非常に難しい問題であろう。

次は、百人一首の問題や、ことわざ、4字熟語の問題が並んでいるもので、単語の意味が分かっているかを問うものである。

留学生で百人一首についての知識があるのは、まれであろう。上の句と下の句をつなぐ問題や、ことわざも、日本人にとっては一般常

識を問われている問題である。しかし、外国人にとっては、日本人の一般常識は非常に広い範囲の情報を意味しており、その対策も困難である。

- [6] 次の百人一首の上の句に合う下の句を選びなさい。

(短歌部分については、古語であるため、語彙分析は行わない)

いにしへの 奈良の都の 八重桜

A今日を限りの命ともがな

B花よりほかに知る人もなし

C衣干したり天の香具山

D花ぞ昔の香ににほひける

Eけふ九重ににほひぬるかな

- [7] 次のことわざの中から「疑わしいこととするな」という意味のものを選びなさい。

A船頭多くして船山へ登る

B盗人に追銭

C火中の栗を拾う

D瓜田に履を入れず

E雉も鳴かずば射たれまい

- [9] 次の四字熟語の組み合わせで、3つのうち1つだけ表記が間違っているものを選びなさい。(便宜的に間違っている表記は太字にした。(語彙の級については下に記す)

A五里霧中・精神一統・言語同断

B無我無中・晴天白日・山紫水明

C一気呵成・意味深長・主客転倒

D意気衝天・不俱載天・縦横無尽

E粉骨碎身・天衣無法・朝例暮改

[7] の問題は、問題の中にある「疑わしい」という言葉自体が難しい。中国由来のことわざ

であるDを選ぶ問題なので、漢字圏の留学生なら分かる可能性がある。

〔9〕は、4字熟語を知っているかどうかを試す問題である。正しい表記にした場合、Aの「精神」が2級、Cの「意味」が4級である以外は、級外の漢字語彙である。

さらに語彙の問題には、以下のように漢字の読み方を問う問題や、語の意味を示し、その単語を選ぶ問題もある。

〔19〕 次の漢字とその読み方で正しいものはいくつありますか。

陰阻（けんあ）    定款（ていかん）  
拿捕（しょうほ）    跳梁（ちょうりょう）  
嫡子（ちやくし）    長閑（なおいり）

次の意味に合う熟語を選びなさい。

〔21〕 本を出版すること

A 執筆    B 原稿    C 上梓  
D 枯抗    E 印刷

〔22〕 物事のしかたがいかげんなさま

A 白眉    B 杜撰    C 癩癧  
D 杞憂    E 蛇足

以上の例のように、級外の語彙がほとんどで、漢字圏以外の学生にとってはハードルはかなり高い。

次に、今まで例を挙げてきた語彙問題について、語彙のレベル分布の様子を見る。

以下の図1に示すのは、語彙問題の語彙レベルの分布である。全体に語数は少ないものの、級外が半分を占める難しい語彙であることが分かる。図2は次に説明を行う長文読解問題の語彙レベル分布である。

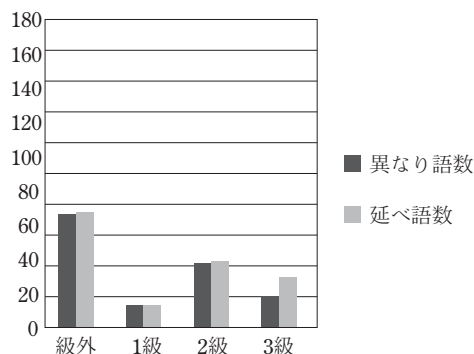


図1 語彙問題の語彙レベル分布 (A)

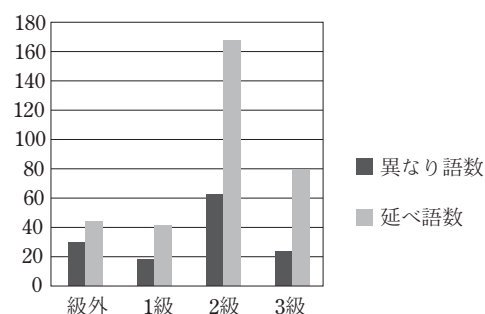


図2 長文読解問題の語彙レベル分布 (A)

## (2) 長文読解問題

長文読解問題は、池田論『生き方としての独学』から採られた文章である。本文は968文字の長さで、語彙的には以下のようなレベルで、「チュウ太」の判定では少し難しいという文章レベルになっている。以下に一部を示す。

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

主婦の自分の体験に基づく知識を重視することは、なによりも大切なことである。そこから出発することは重要である。

本音とたてまえの二重の意見がこの世に通用しているかぎり、この世は変わらない。本音の意見のみが通用するようになって、( )この世は変わりはじめる。

中略



( )、女性が家庭から広い社会に出て、責任ある大切な仕事につくことは非常に重要である。そのとき、女性が単に男性の観念的、論理的知識をまねて、女性の特質を失ってしまえば終わりである。女性がその特質を発展させ、男性の知識を変えるなら、この世にも希望が持てる。ただ残念なのは、女性の体験に基づく知識を否定して、男性の観念的、論理的知識を謳歌する風潮である。( )今日の男性の知識、( )教育の与える知識では不十分だという人間が多くなるということである。

(池田諭『生き方としての独学』)

本文の後には、接続詞などを問う空欄補充、適切な要約文を選ぶ問題がある。本文とそれらの問題まで含めた日本語文の語彙の分布は図2ようである。

長文読解問題は言彙問題と比べると級外、1級の語彙の割合が減っていることが確認できる。

### (3) 言語問題全体の語彙レベル分布

言語問題全体の語彙レベル分布は表7のようになる<sup>5)</sup>。

表7 言語問題全体の語彙レベル分布

(A)	級外	1級	2級	3級	合計
異なり語数	104	30	101	39	274
延べ語数	119	54	210	114	497

級外の語彙が非常に多い。日本語能力試験1級を取っている学生にとっても難しいことが分かる。

### 3.3 非言語問題

ここでは非言語つまり数学の問題について分析する。数学の問題であるため、語彙が分かったところで、問題が解けるわけではない。しかし、問題文の日本語が分からない場合には、解くことができない。解法が分かる場合でも、問題自体を他の日本語文と同じように、読解して意味を理解している状態では、要求されているスピードで解くことができない。さらに、語彙が分からないために、誤った解答を導くことになる例もある。ここでは、日本語文、語彙も重要であるという観点に立ち、語彙のレベルを検討する。

- [1] 8%と3%の食塩水を混ぜて、5%の食塩水を600g作るとき、8%の食塩水は何g必要ですか。

A 240g      B 300g      C 360g  
D 420g      E 480g

- [2] 対角線が20mの長方形の土地がある。その土地の周りには幅2mの囲いがあり、その囲いの面積は128m<sup>2</sup>である。長方形の土地の長いほうの辺は何mですか。

A 15m      B 16m      C 17m  
D 18m      E 19m

- [14] 英語の平均点から数学の平均点を引いて、小数第2位を四捨五入したら、0.2点になった。このとき、Aに当てはまる数を求めなさい。

A8と9      B9と10      C7と8  
D6と7      E5と6

- [15] 30kgのセメントをa, b, cの3人で分ける。aとbの重さの比は5:4とし、cはbの75%にする。このときcは何kgになりますか。

A 7kg      B 7.5kg  
C 8kg      D 8.5kg      E 9kg

[17] 現在、母親は43歳、2人の子どもは、8歳と12歳である。母の年齢が子どもの年齢の和に等しくなるのは今から何年後ですか。

A18年後      B20年後      C21年後  
D23年後      E25年後

上の例 [1] [17] には、1級以上の語彙は全く出てこない。[14] [15] では、1級以上の語彙は、「四捨五入」、「当てはまる」、「比」である。これらの語彙は数学の問題には頻出の語である。上記の [2] では、「対角線」と、「囲い」が級外の語彙である。「対角線」については図があるので、意味が分からなくても誤解は起きない。しかし、「囲い」の意味が分からなかったため、別の部分の計算をしてしまったと述べている学生がいる。語彙がキーワードの場合もある。

さらに、次の [9] ような集合や推理問題が高い確率で出題される。この問題は、語彙的には全部2級以下である。しかし、日本語が正確に理解できていないと、正答が難しい。

[9] 次のイ ロ ハの条件から確実に言えるものはどれですか。

イ：アジア猫はネズミを捕る

ロ：ネズミを捕る猫はよく眠る

ハ：アジア猫でない猫は魚を食べない

A アジア猫でない猫はネズミを捕らない

B 魚を食べる猫はアジア猫である

C よく眠る猫はアジア猫である

D ネズミをよく捕る猫はアジア猫で

ある

E アジア猫は魚を食べる

次の [30] 問題は、グラフの読みとり問題である。級外・1級の語彙が並んでいる。この問題のみ他と傾向が違うようである。

[30] 次に示す平成12年の倒産動向の図表1, 2, 3からは言えないものを選びなさい。

A 平成12年の倒産件数は対前年度比22%増の18,769件となり、政府の金融安定化対策の効果が見られた平成11年度の状況と比較すれば、増加に転じている。

B 倒産の負債額を見ると、大手生命保険会社や老舗百貨店などの大型倒産が多発したために、全体では前年度比75%増の大幅な増加となったが、中小企業について見ると、前年度比19%減となっている。

選択肢 以下略 グラフ略

非言語問題は数字や、図などが多用されているため、語彙的な負担は低い。しかし、「数列」・「自然数」・「内角」・「立方体」など、数学の問題を解くのに必要な語彙で級外のものがありある。これらは、文系の学生にとって、ほとんどが新出の語彙であると予想され、特別な練習が必要と思われる。

一方では、理系で数学が得意な留学生にとっては、ある程度、問題パターンと頻出語彙を練習しておけば、得点源とすることもできると予想される。

### 3.4 言語問題と非言語問題の比較

図3は、言語問題の語彙レベル分布図で、図4は非言語問題語彙レベル分布図である。言語問題は、級外の語彙が多い。非言語問題は、級外の語彙が比較的少なく、2級でカバーできる割合が高いことが分かる。

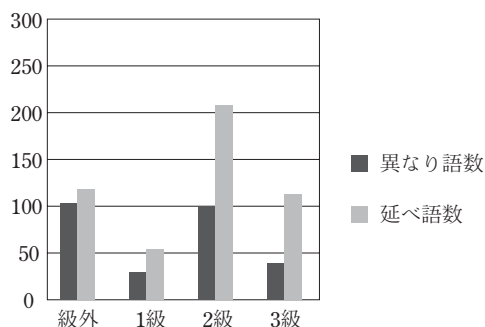


図3 言語問題の語彙レベル分布 (A)

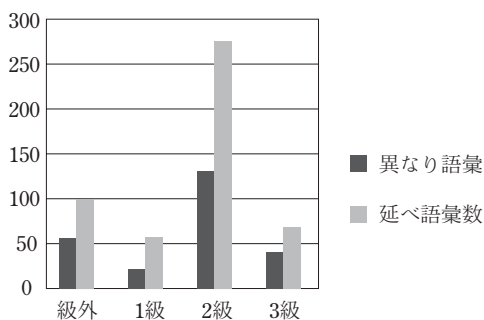


図4 非言語問題の語彙レベル分布 (A)

次に、上記の特徴が模擬試験の個別の特徴によるものか確かめる。模擬試験問題 (A) と、模擬試験問題 (B) (毎日コミュニケーションズ2010) を合わせた語彙のレベル分布を示す (図5・図6)。

ここでも、言語問題の級外語彙数が非常に多い。また、非言語問題は、級外・1級の語彙は少なく、2級でカバーできる語彙が多い。模擬試験問題 (A) の分析で得られた特徴は、個別の特徴ではなくある程度一般性があることが分

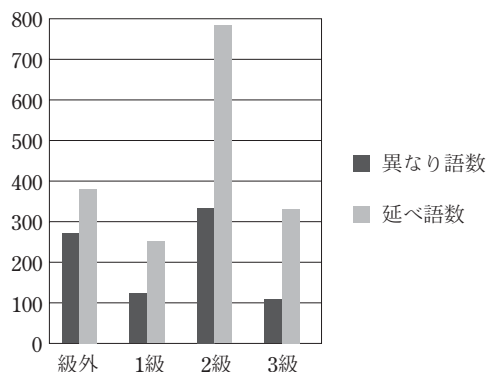


図5 言語問題の語彙レベル分布 (A+B)

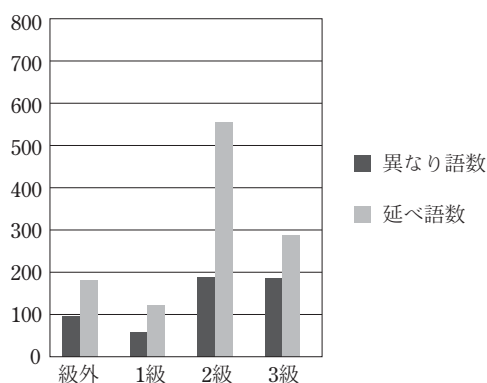


図6 非言語問題の語彙レベル分布 (A+B)

かる。

以上、SPIの困難さについて、SPIの模擬試験を内容と語彙の面から分析することによって推測した。言語問題は、語彙問題が特に難しく、級外や1級の語彙の割合が多いこと、また、内容的には日本語や日本文化の常識に関する知識が必要で、留学生には対応が難しいことが分かった。

一方、非言語問題は2級以下の語彙の割合が多い。級外の語彙については、「件数」「比」「前年」「四角」「内角」「外角」「立方体」など、理系に特徴的な語彙が多い。このことから、非言語問題は、2級の力を持つ理系留学生にとっては、対応可能な範囲であると推定される。ま

た文系の学生には、理系特有の語彙の確認と数学の解法の練習が必要となることが予想された。

#### 4 まとめ

本研究では、日本の企業に就職を目指す留学生が直面する問題点を探り、その中で特にSPIについて検討してきた。

現在では、就職試験の際、多くの企業でSPIを受験するように指示される。特に大企業では、多くの受験者から面接に進める人を選抜する足切りとされるという。そして、この試験は、外国人の受験者にも課される。本稿の2.2で述べたように、日本企業は採用の基準を、外国人に「日本人と同等」としているためであろう。

しかし、SPIの模擬試験問題を分析した結果を見ると、SPIは日本人用の試験であり、留学生にとって非常に難しい問題であることが分かった。特に言語問題の語彙問題、四字熟語やことわざなどの知識については、対象範囲が非常に広く、短時間に身につける有効な対応策が見つけにくい。非漢字圏の学習者には大変なハードルと感じるであろう。

何のために、企業はこの試験を留学生に課しているのだろうか。推測される目的を三つ挙げる。

第1に考えられる目的は、SPIが元々持っている、言語・非言語の能力を測るというものである。本稿、表2と表3を見ると、「国籍に関係なく優秀な人材を確保する」ため、外国人を採用する企業が多かった。企業は、日本人と同等の採用基準でテストして「優秀な人を上から順番に採用したら、留学生が混じっていたのだ」とよく言う。確かにこのテストで高得点す

る学生は、優秀である可能性が高い。

しかし、SPIの模擬問題を分析してみると、このテストは留学生の能力を測るようにはできていないことが分かる。そのため、本来持っている能力が測れない可能性は大きい。点数が低いからと言って、能力がないことを意味しない。例えば、非言語問題では、問題の日本語文が読めないために、解答できないとしたら、数学の能力は測れないことになるからである。

第2に考えられるのは、日本語力の高い留学生を選ぶという目的である。本稿、表4と表5から、企業が採用に当たって、最も重視している項目は、「日本語力」であるということが分かっている。会話力は、面接で測ることができるが、読解力は測ることが難しい。そこで、日本語の読解力を測る手段として、SPIを用いている可能性がある。日本語文が全く理解できない受験者は得点が難しいからである。そして、この試験で高得点を取るために、日本語の勉強をするとすれば、それは結果的に受験者の日本語力を高めていることになり、企業にとっては有益である。

第3に考えられる目的は、受験者のスクリーニングである。スクリーニングとは、「ふるい分けすること」を意味する。吉本ら（2009）によると、就職活動において、企業側が面倒なエントリーシートや作文の提出を求めるのは、あえて面倒なことをさせることにより学生の本気度を試すスクリーニングをするためだと言う。同様に、SPIも一種のスクリーニングだと言えるのではないか。SPIを課すことにより、このような難しい試験があってもひるまず受験する志望度の高い学生だけが受験することになると考えられる。

実際に就職試験に合格した留学生に対し、SPIの難しさはどうであったかを聞いてみた。

全部よくできたという学生はほとんどいない。中には、あまりできなかったという学生もいる。自己申告によるものではあるが、SPIが完璧にできなくても合格が可能であることが分かる。いずれにしても、SPIの難しさにひるまず、受験する必要があるのではないか。

しかしながら、このテストが留学生に与えるプレッシャーは強い。留学生にとってなじみのない分野の問題を解くために、準備として多くの時間を費やすことになっている。実際に受験した結果、非常に低い得点しか取れなかった場合には、面接にまで進めない受験者として足切りされてしまうこともある。なんとか、足切り点以上の得点が必要である。

これまで、留学生の就職支援は一般的でなかったため、留学生のSPI受験のための対策について、検討がなされて来なかった。しかし、日本語教育の立場からなんらかの支援ができるのではないか。

言語問題については短期的には実力をつけるのは難しい。そのため、かなり時間をかけて、語彙知識や、読解練習などを積む必要がある。そのための資料を作ることができると思われる。

一方、非言語問題については、2級程度までの語彙の割合が高く、日本語文としては、留学生にも理解可能なところが多い。もし、日本語教育の一部として語彙や表現の指導をしたなら、もっと効率よく問題を解くことができるだろう。それは、特に日本語力がそれほど高くなく、理系が得意な学生にとって、非常に有効な手段となるであろう。このような指導の結果として、SPIを必要以上に恐れることなく受験することができれば、合格できる留学生が増える可能性がある。

本研究で分析の対象となったのが、模擬試験

問題であるため、実際の問題と違う点があると思われる。今後は、より実際の問題に近いものを分析する必要がある。それが不可能である場合は、多くの模擬試験問題を分析して客観的な結果に近づけるという方法で検討を続けたい。

今後、グローバル30などの進展に従って、レベルが違う、いろいろな業界を志望する留学生が増えてくると予想される。しかし、現在と同じ状態が続けば、内定を取るのは非常に難しい状況である。この問題については、企業に対しSPIが留学生の能力を測るのに適していないことを示していくことも必要である。しかし、現時点では、留学生が日本で就職するという夢を実現するためには、日本語力やSPIについて、なんらかの対策を考える必要があるだろう。そのために日本で就職する上での、問題点を一つ一つ明らかにして、解決策を提案していきたい。

## 注記

- 1) 全国の従業員数300人以上の企業10,349社に対して行われた調査であるが、ここでは、有効回答の中から、留学生を採用したことがある企業（「過去3年間で採用したことがある」＋「過去3年間では採用しなかったが、それ以前に採用したことがある」会社）703社の回答が示されている。
- 2) 英語ができれば日本語ができなくてもいいという企業は1社、外国人採用枠があるのは1社である。
- 3) 日本語能力試験は財団法人 日本国際支援協会によって行われている、「日本国内及び海外において、日本語を母語としない者を対象として、日本語能力を測定し、認定することを目的として」行われている試験である。2010年度に大改訂が行われ、2009年までの試験は旧試験と呼ばれるようになった。

- 4)『日本語文の規格化』(情報処理学会2003)の基準は、『日本語能力試験出題基準』を参考に、文章の平易度を3段階に、以下の表8のように分けている。

表8 『日本語文の規格化』による文章の平易度基準

日本語能力試験級相当	平易度	説明
3級相当	3	最も易しいレベル。生命の安全に直結する情報等、できるだけ多くの人々に最優先で伝達すべき情報を記述するのに用いるレベル
2級相当	2	中間レベル。基本的な社会生活を営むのに不可欠な情報(重要情報)等を記述するのに用いるレベル
1級相当	1	最上位レベル。その他の情報を記述するのに用いるレベル。コンピューターの使い方など、比較的複雑な情報を記述するのに用いるレベル

- 5) 文章の解析と語彙の級の判定においては、漢字表記や単語の認定など、多くの定義すべき項目がある。本研究は、これらの議論の目的としてはいないため、「リーディング・チュウ太」の自動判定に基づいて、3級以上の主として自立語の語彙レベルを判定する。語彙の書き出しの時点で、「リーディング・チュウ太」の判定に問題がある場合は、取り上げるかどうかを検討した。動詞などの活用語尾は単語と認定しなかった。複合助詞は中級以上の留学生の学習項目として必要なものであるという観点に立って、取り上げた。
- 6) 言語問題全体の語彙分布は、語彙問題と長文問題の語彙分布、図1と図2の数字の合計ではない。両方に出現している語彙がある場合は、延べ語数は増えるが、異なり語数は増加していない。

## 参考文献

- 川村よし子 (2009)『チュウ太の虎の巻 日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版
- 佐藤理史, 土屋雅稔, 村山賢洋, 麻岡正洋, 王晴晴 (2003)「日本語文の規格化」『情報処理学会研究報告. 自然言語処理研究会報告』No. 4 社団法人情報処理学会 133-140
- 成美堂編集部 (2007)『09最新最強のSPIクリア問題集』成美堂出版
- 専門日本語教育学会 (2010)『大学教育の中での社会人日本語とは—アジア人財資金構想のビジネス日本語教育—』第12回専門日本教育学会公開セミナー
- 古本裕子, 川口直巳, 山本いずみ (2009)「日本企業に就職する工学系留学生へのビジネス日本語とは?—アジア人財コンソーシアム企業に対するヒアリング調査より—」『日本語教育方法研究会誌 Vol. 16 No. 2 2009』日本語教育方法研究会
- マイナビ編集部 (2010)『マイナビ2012オフィシャル就活BOOK内定獲得のメソッドSPI解法の極意』毎日コミュニケーションズ
- 山本富美子, 糸川優, 渋谷倫子, 副島健治, 戸坂弥寿美, 星野智子 (2008)「企業が期待する外国人「人財」の能力とビジネス日本語」『専門日本語教育研究』第10号 pp. 47-52
- 吉本佳生, NHK「出社が楽しい経済学」制作班 編 (2009)『出社が楽しい経済学2』日本放送出版協会

## 参考資料

- 海外技術者研修協会 (2007)『日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究報告書』  
[http://www.aots.or.jp/jp/press/pdf/press070514\\_2.pdf](http://www.aots.or.jp/jp/press/pdf/press070514_2.pdf)
- 経済産業省人材参事官室 (2007)『グローバル人材マネジメント研究会報告書』

<http://www.meti.go.jp/press/20070524002/globaljinzai-houkokusho.pdf>  
厚生労働省（2008）『一部上場企業本社における外国人社員の活用実態に関する調査』  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/12/dl/h1208-1b.pdf>  
法務省入国管理局（2009）『平成20年における留

学生等の日本企業等への就職状況について』  
<http://www.moj.go.jp/content/000008050.pdf>  
労働政策研究・研修機構（2008）『日本企業における留学生の就労に関する調査（留学生調査・企業調査）』  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/12/dl/h1208-1b.pdf>